

# レスリング男子が オナ禁5日目で モミモミされる理由

山牧田 湧進



【まえがき】

※ 「注意ください」

- ・この作品はフィクションです。実在の人物・地名・団体等とは一切関係ありません。
- ・この作品は成人ゲイ向け官能小説であり、男性同性愛を語っています。
- ・同性愛に嫌悪感を抱く方はご覧にならないよう、お願い申し上げます。
- ・この作品は表現の誇張、強調や省略のある、必ずしも現実には即していないファンタジーであることをご了承ください。
- ・特に作品中の性的描写は、現実の性交渉における性病等のリスクを意図的に排除しています。現実と混同しないよう、ご注意願います。
- ・この作品は想像して楽しんでいただくものです。現実との区別を付けられず、犯罪や迷惑行為に及ぶ危険のある方はご覧にならないでください。

## 【あらすじ】

レスリング部、176cm 126kg 18歳。

レスリング部の顧問までしていて、必ず体育教師と間違われるガタイを持つ物理教師、利尻 満明（りしり みつあき）の下もとに育った大いなる逸材、柵田 光明（たなだ こうめい）は卒業を目前にして物理で赤点を取り、出来るようになるまで『オナ禁』を命じられた。

若さ溢れる超健康な男子が『オナ禁』なんてするのは試合の前日くらいのものである。

しかし、物理は出来なくとも、利尻先生に対しては特に真摯な姿勢を取る柵田は命令を真面目に守り、2日、3日、4日と『オナ禁』新記録の日々を重ねていく。

棚田を心配するレスリング部の同僚が、日々、棚田に助言をし、けしかける。それでも、現状を打破できないままオナ禁を続ける棚田を見るに見かねた同僚は5日目、ついに実力行使に出た。

男子トイレの個室に強引に棚田を連れ込んでちんこモミモミ揉み揉みもみもみ……。

だが、その一方で、同僚は決して、オナニーできない棚田の代わりに抜きに出てくれたわけではなかったのだ。

「絶対にイクなよ、光明。ギリギリで堪えろ」

レスリング男子がオナ禁5日目で同僚にちんこモミモミされている。なぜ、こんなことになった？



# レスリング男子がオナ禁 5 日目でモミモミ される理由

「や、やめろ、って。た、頼むから……」

「いいや、ダメだね。許さねえ」

オレは今、レスリング部で一番仲の良かった同僚に、トイレの個室へと連れ込まれて、ちんこを揉まれている。

オレ一人でもせせこましい学校の男子トイレの個室に、もう一人ガタイの良い奴が詰め込まれてくると、ここだけ通学の満員電車の片隅みたいな状況になる。

そう考えると、オレはまるで車両の隅っこで痴漢されている男子生徒みたいだ。

いや、でも、仲が良いっていうのは、そういう意味じゃあないんだ。

「最後なんだぞ。チャンスなんだぞ。お前、淡い片想いのままで終わらせるつもりなのかよ」

「だから、そんなんじゃない、そんなんじゃないって……」

雰囲気で、今この男子トイレにはオレとこいつしか居ないことは分かっているのだが、それでも、すし詰めの個室内でこそ話で小競り合いをしながら、オレはずっとこいつにちんこを揉まれ続けている。

ああー、オレ、今日、こんなパンツ穿いてくるんじゃないかった。

ツルツルと滑らかな手触りの、キツ過ぎず良い具合にフィットするお気に入りパンツ。

玉と竿の重みで適度に垂れて、でもフィット性も良いから安定するんで気に入ってるんだ。

でも、これ、困ったことに、こうやってパンツの上からモミモミしても（されても）凄く良いんだ。

良いなら、良いじゃないか、って？

冗談じゃない。

オレ、今、4日オナ禁していて、5日目突入だ。

病氣したって、旅行したって、初めてオナニーを覚えたその日から今日の今日まで、長くても1日我慢して空けたことがあったくらいで、こんなに我慢したのは当然初めてのことだ。

あ、試合の前日はいつも我慢してたよ。

先生も、直接『オナニーしないで我慢しろ』なんてことまでは言わなかったが、試合前は適度なテンション、ストレス、フラストレーションを持っていた方が良かったって、言ってたし。

試合前に抜いちゃうと、血気というか覇気が薄れてしまうみたいな話は結構あちこちで目にしたり耳にしたりしてたし。

でも……。

健康な18歳の男子。しかも、レスリング部。176cm 126kg。

こんな奴がオナ禁5日目突入とか。

それがどんなに大変なことか、きつと、男なら分かってくれるだろう。 な？  
な？ ……な？

そして、今、そんな極限状態のオレが、シルキータッチのフィットパンツの上からちんちん揉み揉みモミモミもみもみ……。

たまらんことこの上無い。

「イツちゃったら、先生との約束破ることになっちゃうんだから、もうやめてくれ、って」

「それじゃあ、絶対にイクわけにはいかねえよな。絶対にイクなよ、光明<sup>こうめい</sup>。ギリギリで堪えろ」

もみもみモミモミもみもみモミモミ……

「あああああ、もうよせ、って」

オレは左手で左目と額を覆って、ひたすらその快感を堪能させられつつ、ひたすら堪<sup>こら</sup>える。

さっき、こいつと仲が良いといっても、そういう意味じゃないと言っていたのは今のやりとりからでも分かるだろう。

こいつがオレを弄り倒してくるのには、別の理由がある。

あーでも、こいつに話すんじゃないかなあ。オナ禁のことも、補習のことも。

でもさ、オレ、4日前にはこんなことになるなんて、1mmも思ってたか  
らさあ。

(こちらは体験版です)



# レスリング男子がオナ禁 5 日目でモミモミされる 理由

OpusNo.            Novel-063  
ReleaseDate      2019-11-18  
CopyRight ©      山牧田 湧進  
& Author            (Yamakida Yuushin)  
Circle                Gradual Improvement  
URL                    [gi.dodoit.info](http://gi.dodoit.info)

個人で楽しんでいただく作品です。  
個人の使用範疇を超える無断転載やコピー、  
共有、アップロード等はしないでください。  
(こちらは体験版です)

